

政策課題4 魅力と風格あふれる愛知づくり

(1) 「文化芸術」を軸に創造的な地域づくりを進める

【取組の視点】

文化芸術は、県民一人ひとりの個性・自分らしさの発揮や、心豊かな生活の大きな要素であり、また、人々に共感、感動をもたらす人間らしい活動である。

加えて、知恵が価値を持つような時代にあっては、創造的活動の果たす役割が大きくなっており、文化芸術を軸とした創造的な活動が、個性的なまちづくりや新たな商品、産業の創造を誘発し、大きな波及効果をもたらすなど、地域の活力を生み出す原動力になっていく。

また、文化の薫り高い創造力あふれる地域は、その地域のアイデンティティの確立のみならず、他地域から人を引き付けるような地域の魅力や風格をさらに高めることになる。

今回の未曾有の経済危機を契機として、一層質が重視され、その中心となる文化芸術がより大きな価値を持つ時代へとさらに大きく転換していくことが予想される中、愛知県にとっては、文化芸術を軸に創造的な地域づくりを進めることは極めて重要な課題であり、厳しい経済環境の中にあっても、中長期的な観点から、地域全体で息の長い取組を進めていくことが求められる。

【重点的な取組の提案】

① あいちトリエンナーレの定期的開催を軸に、文化芸術の新たな価値を創造・発信する

- 愛知県では、2010年を皮切りに、日本における最大級の国際展として「あいちトリエンナーレ」を開催することとしている。初回は、愛知芸術文化センターを拠点として、現代美術を基軸としつつ、同センターの美術と舞台芸術の複合機能を活かした新しい国際芸術祭のスタイルを世界に発信し、愛知らしさをアピールするとともに、美術、舞台芸術などの部門で、幅広い層を対象にした様々な普及・教育プログラムの展開を図り、県民に広く浸透させていくことで、この地域に大きな波及効果をもたらすことが必要である。
- さらに、このトリエンナーレを3年に一度、定期的で開催し、先端の芸術を発表・創造する場として展開を図ることにより、この地域の文化芸術を活発化させ、世界に発信し、国際社会から尊敬される魅力的な地域づくりにつなげていく必要がある。

② 文化芸術の底上げを図り、さらに創造的な地域づくりにつなげていく

- 文化芸術の持つ力が人々の生活やまちづくりに浸透し、創造的な活動が行われ、風格ある地域へと愛知が大きく脱皮していくことが重要である。そのためには、様々な分野での展開、市民・NPO・企業等を巻き込んだ取組など、多元的・重層的な広がりをもって、愛知の文化芸術の底上げを図っていくとともに、例えば、デザインの要素を入れた産業の創造、芸術系大学と地域との関わりの強化、文化的な取組をコーディネート・支援する仕組みづくり、文化・景観を重視したまちづくり、祭りをはじめとした伝統文化の保全・継承など、多様な主体による創造的な地域づくりにつなげていくことが必要である。

《施策・事業のアイデアの例》

- ・アートと産業の接点（デザイン、ファッションなどの創造産業）、教育の接点（学校に出向いて文化・芸術活動を展開するアウトリーチ等）、地域振興の接点（芸術家が一定期間、特定の場所に滞在し、創作活動を行うアーティスト・イン・レジデンス）など様々な分野での展開
- ・この地域の特色ある国際的・文化的イベントとして定着している「あいち国際女性映画祭」のグレードアップ
- ・中山間地域や里山の自然・風土を活かしたアートによる地域振興方策の検討
- ・公募方式等により選考した地元文化芸術団体等の公演や出展との連携

③ 文化芸術を担い、支える人づくりを進める

- 文化の薫り高い地域は、結局のところ、文化芸術に楽しみを見出し、創造する「人」の層の厚さにかかっており、とりわけ人づくりの観点が重要である。文化芸術に関する教育のあり方を検討し、学校や地域が企業・NPO等の取組と連携しながら、感受性豊かな時期に文化芸術の楽しさ、深さに触れる機会や自ら表現する機会を数多く用意することにより、文化芸術の多様性を受け留める心や自ら発信する力（リテラシー）を育んでいくことが必要である。

《施策・事業のアイデアの例》

- ・第一線で活躍する芸術家や地元の民俗芸能保存団体との交流、産業文化施設との交流など、子どもの文化芸術体験の拡大
- ・企業による文化芸術面での地域貢献活動の盛り上げ
- ・県立芸術大学などの芸術系大学や文化芸術団体、NPO等と連携したアウトリーチ活動（日頃、芸術や文化に触れる機会の少ない市民の近くに出向いて文化・芸術を披露する

こと)の促進

- ・各文化芸術施設の「友の会」やNPO等との連携による運営ボランティアや解説ボランティア、視覚障害者ガイド、コーディネーター等の養成

- 創造の担い手である若手芸術家が数多く育っていくためには、それを職として生活ができ、さらにより高い挑戦を続けることのできる場がこの地域に存在することが不可欠である。愛知芸術文化センターという器、トリエンナーレという舞台を活かしながら、地域として若手芸術家を支援していくことや、芸術家の活動を事業として社会と結びつけるようなコーディネートができる人材、芸術家をまちづくりや地域活性化など新しい分野で活躍させる人材の誘致・育成に取り組んでいく必要がある。

《施策・事業のアイデアの例》

- ・愛知芸術文化センターをはじめとして若手芸術家が交流し、活動発表できる場の拡大
- ・市町村等による遊休施設やまちなかの低未利用スペースの活用、改修転用など、既存施設を有効活用した若手芸術家への活動機会の提供の促進

(2) 「学術」力で、人材を引き寄せ、知恵を生み出す

【取組の視点】

世界から人材を引き付け、様々な創造が生まれる地域を目指す上では、地域の知的資産の拠点である大学の役割も重要である。

大学を巡っては、少子化によって将来の入学者の縮小が見込まれる一方、国際的な競争力の強化や、高度な人材育成、さらには地域や国際社会への貢献といった様々な期待が寄せられる中、国立大学の独立行政法人化が図られるとともに、国公立大学を通じて、特色・個性ある優れた取組に国の支援が集中される、競争的環境が強まりつつある。

知識経済化が進む今日、地域の大学がこうした競争に打ち勝ち、特色ある研究成果を生み出し、その実績をもとに全国・世界から研究者や学生を引き付け続けていけるかが、地域の発展をも大きく左右する。

このため、地域がこれまで以上に大学の機能強化の取組に関心を強め、大学での高度な研究や人材を地域の産業活動と結びつけるなどによって、大学と地域との間に、人材や知的資産の形成・蓄積の好循環が生み出されるよう、支援していくことが重要である。また、先進各国の少子高齢化等に伴い、国境を越えた優秀な人材の奪い合いが激化している中、大学と連携してアジアをはじめとする海外から高度な知識や技術を持つ人材を積極的に受け入れ、活用を図っていくことも重要となる。

【重点的な取組の提案】

① 大学の高度な研究・人材育成を地域が支える

- 大学は、地域の重要な知的資産であり、また、将来を担う人材の供給源である。その知的資産の質を高めることで全国・世界から優秀な人材を呼び込み、さらに先端の研究成果が生み出される好循環を、地域としても積極的に支援していく必要がある。

欧米だけでなく中国などの新興国でも、国家戦略として研究開発投資に多額の資金を投入し始めており、先端分野の研究開発における国際競争は今後一層激化していくものと考えられる。また、こうした事情は、科学技術に限らず、社会科学分野も同様であり、大学等研究機関、大学と地域、企業等での理工系分野での共同研究や経営・マーケティング面など社会科学系分野での連携事業の活発化や、国等の研究資金の獲得に対する協力などにより、特色ある研究や実践を数多く展開できるような支援を行うとともに、研究開発の成果を実際のイノベーションにつなげていく上で必要な人材の育成を図っていくことが必要である。

《施策・事業のアイデアの例》

- ・大学の先端的な研究に対する実験フィールドの提供、共同研究者のマッチングなどを通じた支援
- ・技術経営や知的財産などを担う人材、科学技術コーディネーター等の計画的な育成
- ・博士号を取得しながら、不安定な身分で研究活動を行っているポスドクの活用、企業等とのマッチング

② 海外高度人材の受入れ・活用を図る

- この地域が世界的な産業の中核拠点として発展していくためには、アジアをはじめ世界の優れた人材が集い、活躍できる地域となっていくことが重要である。少子化に伴う若年人口の減少や若者の理工系離れが進む一方、企業のグローバルな展開が進む中で、必要な人材を国内だけで調達するのは困難になっていくものと見込まれることから、海外の優秀な人材やその予備軍である留学生・研究生を地域として積極的・戦略的に受け入れ、この地域での活用を図っていくことが必要である。とりわけ、優秀な人材に集中的に投資し、地域でのトップ人材として定着させるような取組を重視する必要がある。

《施策・事業のアイデアの例》

- ・愛知県の産業発展に必要な知識や技術を習得しようとしている留学生・研究生を戦略的に受け入れていくための大学と連携した支援策の検討
- ・産業界とも連携した留学生の就職支援の取組強化
- ・既存の公営住宅や団地、社宅等を活用した留学生のための宿舎の確保策の検討

③ 大学の地域貢献の取組を引き出す

- 大学と県、あるいは市町村、企業、NPO等と協働したまちづくりや福祉分野での実践的な取組は、大学の専門的な知識を地域課題の解決に活かすだけでなく、その実施過程を通じた知見の深まり、参加する学生の地域への関心・愛着の高まりなど、地域、大学双方に大きな効果がある。こうした大学と地域の連携を活発化させるため、大学と県等との間の情報共有、連携窓口の設置、協働の活発化のための仕掛けづくりが必要である。

《施策・事業のアイデアの例》

- ・行政（県、市町村）と大学等の地域づくりや科学技術の創出など多分野における相互間のマッチングシステムの構築
- ・大学等との協働を推進するためのルールづくり

(3) 観光振興により交流人口を増大する

【取組の視点】

観光を巡っては、近時の世界同時不況の下で勢いを失っているものの、海外、特に東アジアからの訪日観光客の増大、国内旅行では個人旅行や体験型旅行といった新しい旅行スタイルへの移行、さらには、世界遺産、昭和の町並み、「食」といった新しいテーマの観光地の登場など、大きな変化が見られる。

一方、地域の視点からは、地域が育んできた固有の伝統・文化・歴史・産業・自然等の観光資源の輝きは、重要なアイデンティティの要素であると同時に、輸出型産業を補完する新たな産業が求められる中での、いわゆる外貨を稼ぐ大きな手段の一つとなる。

愛知県を含む中部地域は、自然、歴史、文化、産業など、多種多様な観光資源が存在しており、また、中部国際空港や新東名・新名神高速道路、さらには将来のリニア中央新幹線の整備もにらみ、愛知県が全国・世界からの観光客のゲートウェイとなって、中部の広域観光圏全体の魅力を向上させていくことが重要である。

【重点的な取組の提案】

① 広域型観光を推進する

- 中部地域は雄大な自然、歴史、産業の蓄積や多くの文化財など日本有数の多様な観光資源に恵まれている一方、これまでは主要観光地に向かう「点」と「線」の観光が中心であり、複数の観光地間で連携・ネットワーク化して、中部といった広域エリアが観光の目的となるような「面（エリア）」での魅力づくりは十分とは言えない。今後は、自然景観や温泉、モノづくりの歴史、世界遺産、武将、歴史的町並みなどテーマ性やストーリー性を持った魅力ある広域観光を推進することにより、中部において長期滞在型で、繰り返し訪問したくなるような広域観光圏を形成していく必要がある。このため、国内外の観光客のニーズを十分踏まえ、中部国際空港や交通ネットワークを活かした観光コースを構築・提案するとともに、隣接県等と一体となってこの地域の観光の魅力を発信していく必要がある。

《施策・事業のアイデアの例》

- ・中部広域観光推進協議会等を活用した「広域観光モデルコース」の提案
- ・ロゴやキャッチフレーズを統一し、マスメディアや交通事業者等とタイアップしたディスティネーションキャンペーン（「ディスカバー・セントラル・ジャパン」（仮称））の展開

② 愛知らしい観光資源を磨き上げる

- 中部には多種多様な観光資源が存在しているが、他の観光エリアと差別化ができるテーマや資源を磨き上げ、地域イメージを確立していく必要がある。

そうした点で先行している「産業観光」に関しては、東アジアの人々は近代産業観光への人気が高く、欧米諸国の人々は伝統産業への関心が高い傾向にあることから、「産業観光」の国際化に向けた取組を積極的に推進する必要がある。

これに並ぶ「武将観光」については、名古屋城本丸御殿の一部復元（2010年）などの事業や、伝統・歴史を背景とする街を訪ねる「街道観光」との連携も念頭に置きながら、歴史雑誌・観光雑誌とのタイアップや、武将の一生を巡るモニターツアーなど、武将ゆかりの観光資源を有する地域間の連携・ネットワーク化をさらに進めていく必要がある。

- こうした取組に加え、愛知の持つ特色ある資源を活かした新たな観光を打ち出していくことも必要である。愛知県内には、「あいち臨空新エネルギーパーク」など、経済活動と環境を調和させるような取組を紹介・体験する施設が数多くあるとともに、「海上の森」など人と自然との共生を体験できる自然環境に恵まれていることを踏まえ、COP10の開催も活かしながら、愛知独自の「グリーンツーリズム」や「エコツーリズム」といった「環境」をテーマとした観光に取り組んでいくことが必要である。

また、先進のがん治療や長寿医療に関連させた「ヘルスツーリズム（医療観光）」など、高齢者や国内外の富裕層などターゲットを絞った魅力的な観光メニューを企画・提案していく必要がある。

さらに、三河湾をはじめとした自然の恵みや「名古屋めし」といった地域独自の食文化を観光資源とすることをさらに進めていく必要がある。

- 加えて、フィルムコミッションを活用して映画・テレビドラマ・CMのロケーションを誘致し、各国での中部の露出度をアップさせるとともに、海外のメディアで取り上げられた観光情報を活用した企画などを検討・提案することも必要である。

③ 観光ゲートウェイとしての役割を強化する

- 中部全体を広域観光圏として考えた場合に、愛知県が実現すべき役割は、国内外からのアクセスの起点、ゲートウェイとしての機能である。とりわけ、海外からの観光客に対する情報提供、観光サポート、さらにはビジネス客・留学生を観光客に加えるプロモーション機能を高めていく必要がある。
- 中でも、言葉の障壁などをなくし、外国人旅行者が観光しやすい環境を整えていくことが必要である。

《施策・事業のアイデアの例》

- ・観光地での多言語や絵文字による案内標識・案内所の設置、通訳・ガイドの確保
 - ・レンタカー利用の増加に伴う多言語カーナビゲーション等の導入の検討
 - ・外国人留学生等外国人によるモニターツアーの実施（中部国際空港から目的の観光地まで日本語を使わないで旅行し、外国人が迷うことなく目的地まで到達でき、応対した人と最低限の意思疎通ができるための障壁の把握とその除去・改善に役立てる）
 - ・訪日外国人など土地に不案内の観光客に対する緊急時の避難誘導や医療体制等の対応
- システムの構築

- また、国内及び海外において中部の観光に関する情報の不足が指摘されていることから、観光資源に関する正確な情報を広く国内外に発信し、観光客が来訪しやすい環境づくりを進めていく必要がある。

《施策・事業のアイデアの例》

- ・映画、雑誌などの評価、話題をとらえた観光客誘致の促進
- ・海外向け多言語ポータルサイトの充実（地域の一般情報や生活情報等の多様な情報を観光資源別・ターゲット別に分類して日々更新）
- ・在名の領事館等職員に対し、当地域の観光を体験するツアーに招待することなどを通じた魅力のPR

- さらに、観光を通じた地域の活性化に成功した地域の多くには、観光振興の先導役を担う熱意に溢れるリーダーが存在している。こうした優れた人材を長期的な視野で育成することを目指して、教育と観光振興の連携を強化していくことが必要である。また、県や県観光協会において、観光に精通した「プロの人材」を積極的に活用していくことが必要である。

《施策・事業のアイデアの例》

- ・県立高校の商業科や総合学科に観光に関するコースや系列を開設
- ・地域の観光地づくりに携わる実務者に対する「まちづくりアドバイザー」や「地域づくりリーダー」等を養成するための講座の開催、「観光カリスマ」の成功例から学ぶ場の設定

④ メッセージ性の高いイベント・コンベンションを継続的に開催する

- すでに開催が決定している第4回日中韓観光大臣会合(2009年)、COP10(2010年)、あいちトリエンナーレ(2010年)は、観光推進の大きな契機となることから、戦略的な取組を進めていくことが必要である。

《施策・事業のアイデアの例》

- ・日中韓観光大臣会合を契機とした東アジアをターゲットにした外国人観光客の誘致促進
- ・COP10を契機とした「農業」や「環境」などをキーワードとした東アジア等からの視察、観光客の取り込み

- さらには、2010 年以降においても、大規模な国際会議やイベントなど次なるターゲットの絞り込みとその誘致に取り組み、継続的にこうしたイベント等を行っていくことによって、国内外から多くの人々を集め、世界に向けて愛知発の新しい価値を発信していく必要がある。